

# 被修飾語からみる「まあまあ」「まずまず」「そこそこ」の評価性について

原 美築 (名古屋大学大学院博士後期課程)

## 要旨

本稿は、程度副詞として働く「まあまあ」「まずまず」「そこそこ」の3語を取り上げ、「評価性」の観点からそれぞれが持つ特性を記述することを目的とする。それぞれの語の「評価性」を明らかにするため、各語がどのような統語的環境で表れやすいかを示した後、各語が修飾する語をその評価性(評価の高低・有無)ごとに分類し、傾向を示し、その傾向が表れる要因を考察した。その結果、「まあまあ」には被修飾語を「曖昧にする評価性」が、「まずまず」には、標準よりやや上を示す「高評価明示性」がそれぞれ認められることが明らかとなった。また、「そこそこ」においては、「まあまあ」「まずまず」のような「評価性」を明確には認めにくく、程度限定以外の観点を介入させずに(話者個人の判断や感情を挟まずに)表現する用例が多い特徴があることを指摘するに至った。

## 1. はじめに

本稿で取り上げる「まあまあ」「まずまず」「そこそこ」の3語は下記(1)~(3)のように、よく似た形式の用例を取る<sup>1</sup>。

- (1) こんなふうに新日報社がまあまあの成績をあげて来たことについては、とにかく他の大新聞の轍を踏まないのがよかったといふ、某評論家の冗談半分の説がある。  
(丸谷 オー『女ざかり』)
- (2) その最強軍団はシーズン序盤を終えたここまで、まずまずの成績を残している。  
(ミゲル・ゴンザレス(著)/ウエノ マサミツ(訳)『WORLD SOCCER GRAPHIC』)
- (3) あんなプレッシャーのなかでそこそこの成績を収められて、精神的にも強くなれたと思うし、得たものは大きかったですね。  
(『週刊プレイボーイ』)

(1)~(3)はどれも「成績」について「悪くはない、ある一定以上の程度に」といった程度性を付加している。「まあまあ」「まずまず」「そこそこ」のいずれにおいても、程度の大小の差は感じにくく、3語について程度の大きさを基準に違いを指摘するのは難しい。しかし、ほぼ同等の程度を示すにもかかわらず、3語はいずれも淘汰されることなく用いられている。その理由として考えられるのは、3語が「程度の大きさを示す(以下、「程度限定」と記す)」以外の役割を担っているからだという点である。

<sup>1</sup> 以下、用例は『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)によるものである。下線や囲いは筆者が施した。

本稿では、3語が持つ「評価性」に注目し、それぞれの違いに迫ることを目的とする。ここで用いる「評価性」とは、話題の事物の属性に対する話者の判断や心的態度（肯定的なのか否定的なのかなど）を指す。

## 2. 先行研究

「まあまあ」「まずまず」「そこそこ」の3語あるいは2語を比較・検討した先行研究は見られない。各語を個別に記述した先行研究には、「まあまあ」に苗田(2003)、「そこそこ」に鈴木(2011)、清田(2014)がある。

苗田(2003)は、辞書に掲載されている「まあまあ」の用例を取り上げ、用法ごと<sup>2</sup>に程度性を考察し、「話し手によって差はあるが、満足・許容できる程度を表しているといえる(苗田2003:84)」という結論を導いている。ここに見られる「満足・許容できる」という点は注目すべきだと思われる。「満足」や「許容」は話者による感情や評価判断によるものであり、純粋に程度を限定するのは別の観点が入っていると見える<sup>3</sup>。

鈴木(2011)は、「そこそこ」について、「≪自賛≫の抑制機能と、余益表現における負債の緩和機能がある(鈴木2011:88)」とし、「「そこそこです」というような謙遜表現には、否定型の謙遜表現とは違い、謙遜しつつも、ある程度自信を認めるというニュアンスが含まれる(鈴木2011:88)」といった指摘をしている。

清田(2014)は、「そこそこ」を通時的に観察<sup>4</sup>し、その意味用法が時代ごとにどのように変遷したかを論じている。清田(2014)によると、「そこそこ」の「程度副詞用法」は、「マイナス評価を有する述語、また否定文、疑問文と共にくく、マイナス評価の語の修飾や、疑問文・否定文の環境で用いると不適格文になる一方で、「あの映画そこそこ面白かったですよ?」(清田2014:(17)j)」のような確認要求の環境では自然に用いられることを指摘している。そして、程度副詞用法が用いられる条件を「プラス評価を有する語を修飾し、かつ肯定文もしくは疑問文のうち確認要求を表す場合(清田2014:(18))」であると結論づけている。

以上より、「まあまあ」には「程度限定」の役割以外に、話者による「許容・満足」、「そこそ

<sup>2</sup> 苗田(2003)は辞書類による用例を「形容詞・形容動詞を修飾する用法」、「名詞を修飾する用法」、「副詞等を修飾する用法」、「動詞を修飾する用法」、「「まあまあ」の形で連体修飾語として用いる用法」、「述語として用いる用法」の6種類の用法に分けて、それぞれの用例がどのような程度性を表していると考えられるかを記述している。

<sup>3</sup> ただし、苗田(2003)で扱われている用例は辞書に記載されているもののみであり、話者の「評価性」を正確に読み取り、検討するのは困難である。また、「許容・満足」が認められると記述されている用例についても、用例中の語句や文脈を根拠にするのではなく、苗田自身の恣意的な見方がされていると疑われるものがある。例えば、苗田(2003)では、以下に挙げる3つの用例に対して、全て「出来具合や成績が自分としては満足できる、あるいは許容できる程度であることを表している(苗田2003:83)」と述べている(以下、用例番号は苗田(2003)による)。

(26)英語のテストはまあまあの出来だった。

(27)まあまあの成績。

(28)初マラソンにしてはまあまあのタイムだ。

(28)に関しては、「初マラソンにしては」という表現から、「まあまあ

<sup>4</sup> 清田(2014)は、「そこそこ」は中古に「どこそこ」を表す名詞用法として使用されるようになり、近世に「ソコソコニP」という情態副詞用法が、近代に「数量+そこそこ」で概数を表す接尾辞的用法が派生し、現代になって程度副詞用法が表れたとしている。

こ」には「謙遜しつつも、ある程度自信を認めるというニュアンス」という「評価性」が指摘されていることが分かる。また、「そこそこ」には、マイナス評価の語の修飾や疑問文・否定文の環境での使用がされないという統語的な制限の指摘があることを確認した。

### 3. 調査方法

3語の評価性を明らかにするために、本稿では「現代日本語書き言葉均衡コーパス」におけるデータを用い、用例を採集した<sup>5</sup>。その結果、「まあまあ」で526件、「まずまず」で292件、「そこそこ」で1017件の用例を得た。このうち、感動詞としての用法（「まあまあ落ち着いて」に類するもの）など程度副詞以外の用法を除外すると、「まあまあ」で350件、「まずまず」で270件、「そこそこ」で686件が調査対象となる用例として得られた。

上記の方法で得た計1306件の用例について、まずは3語の文中位置について検討し、修飾語のとりやすさなどの大まかな傾向を探る。次に、同じカテゴリ内の用例について、被修飾語の評価の度合い（プラスかマイナスかニュートラルか）による分類を行い、3語の「評価性」の異なりについて考察する。

### 4. 3語の文中位置による分類

3語を文中位置ごと<sup>6</sup>に分類すると、以下の表に見られる結果を得た。

表1 各語の文中位置による分布

	述語用法	修飾語				その他	合計
		形容詞	動詞	名詞	副詞		
まあまあ	155 44.3%	77 22.0%	44 12.6%	63 18.0%	8 2.3%	3 0.9%	350
まずまず	115 42.6%	42 15.6%	16 5.9%	94 34.8%	3 1.1%	0 0.0%	270
そこそこ	73 10.6%	154 22.4%	288 42.0%	157 22.9%	6 0.9%	8 1.2%	686
合計	343 26.3%	273 20.9%	348 26.6%	314 24.0%	17 1.3%	11 0.8%	1306

表1より、述語用法において、「まあまあ」「まずまず」で4割以上の用例が該当するのに対し、「そこそこ」は1割程度である点や、動詞修飾用法において、「まずまず」と「そこそこ」とで用例出現率が大きく異なる点などが特徴として挙げられる。3語には似た文脈で用いられる用例がある一方、各用法の取りやすさには傾向が見られると言える。このような傾向の差は各語が持つ「評価性」の違いが関連していると考えられる。例えば、話者の心的態度を示す「評価性」は各語が文末に現れる場合の用例、すなわち述語用法の取りやすさに影響してくるだろう。「まあまあ」「まずまず」が4割程度の述語用法を示すのに対して、「そこそこ」は1割程度と少ない。この差は、「そこそこ」の持つ評価性が「まあまあ」「まずまず」と異質であるからこそ生じるものであると予想される。ただし、述語用法の様相からは、評価性への関与の度

<sup>5</sup> 検索システムは『少納言』を用いた。また、ジャンル・期間（年代）は、全範囲を対象とした。

<sup>6</sup> 文の述部にくるものを「述語用法」、文頭あるいは文中で表れ、修飾語として働くものを「修飾語用法」とした。「修飾語用法」については、被修飾語の品詞による分類も施した。

合いの概略がつかめる一方で、その評価性の内実の異なりはつかみにくい。そこで本稿では、程度副詞としての基盤的用法である形容詞修飾用法に着目する。

【述語用法】

- (4) 義姉さんは優しいし、須美ちゃんの料理だってまあまあです。  
(内田 康夫『御堂筋殺人事件』)
- (5) 極端に狭いが、いちおうマンション風3LDKの三人部屋で陽当たりもまずまず。  
(三雲 岳斗『ランブルフィッシュ』)
- (6) 普通に会社勤めをし、家庭もそこそこ、俺にはそんな生き方が性に合っている。  
(佐田 恵一/ 平良 信介『55歳男の告白』)

【形容詞修飾用法】

- (7) カヌーで川を下ったことのない人が「川下り遊船」をまあまあ面白いと感じるように、初めて川を下る人には楽しめるかもしれない。(野田 知佑『ハーモニカとカヌー』)
- (8) フリーのライターになって四年になる。仕事はまずまず順調で、今日明日の食事に困るようなことは、一度もなかった。(北森 鴻『花の下にて春死なむ』)
- (9) 床はフローリングで、そこそこ綺麗に掃除されているようだ。  
(榎野 道流『無明の闇』)

【動詞修飾用法】

- (10) デカールそのものは、製品ごとにまあまあ使えるものだったり、発色がおかしく使えなかったりする。(Jun Inui(著)/ 実著者不明『飛行機プラモカタログ』)
- (11) それに加えて、当時の満州国内の事情は比較的平穏と申しますか、まずまず安定したものでした。(村上 春樹『村上春樹全作品 1990～2000』)
- (12) 母と親子三人、贅沢さえしなければ、そこそこ生活はできた。  
(矢口 周美/ 黒坂 黒太郎『ママ母狂想曲』)

【名詞修飾用法】

- (13) 途中、数台の車が私の車に気を配って抜いていってくれた。風があつたがまあまあの天気だった。(小坂 国男『希望』)
- (14) 小倉恒投手(3番手で登板。3回1/3を4安打2失点) 「3イニングまでは無失点でまずまずの内容だったが、その後がいけなかった。(河北新報社『河北新報』)
- (15) 「きみだって、けっこう優秀な選手だった。インターハイには行けなかったけど、地域ブロック大会では、そこそこの成績を収めてたんだから」  
(市川 拓司『いま、会いにゆきます』)

5. 形容詞修飾用法における各語の「評価性」

5.1. 被修飾語の評価分類

本節では、各語が形容詞修飾用法を取る場合について分析を行う。各語の評価性の傾向を探るため、まずは各語の被修飾語を「良い、おいしい、きれいだ」などの「高評価語」、「普通だ、平均的だ」などの「中評価語」、「痛い、つらい、危険だ」などの「低評価語」、「遠い、近い、大きい、小さい」などの「ニュートラルな語」に分類した。しかし、「ニュートラルな語」を修飾する場合であっても、前後の文脈からその語がプラスの意味で使われているのか、マイナス

被修飾語からみる「まあまあ」「まずまず」「そこそこ」の評価性について

の意味で使われているのかの判断が可能な例も存在する。

(16) このマーカムご夫妻は今すぐここに引っ越してきたいというのでもなさそうよ。村にもまあまあ近いし、ちょうどいい大きさの庭があって、パドックもついているわ。  
(『たそがれの林檎園』)

(17) 一番クラスで小さかったこの子は、自分でも、まあまあ小さい方、といった。でももうすぐ大きくなるんだ、と決意を見せた。  
(『黒豹たちの教室』)

(16)は、前後の文脈から「村に近いこと」がプラスの評価であることが明らかである。このような用例は「ニュートラルな語」の中で「高評価の判断が可能（以下、「高評価判断」と記す）」なものとして分類する。逆に、(17)の用例では、大きくなりたい子どもが「まあまあ小さい方」と発言しており、「小さい」ことをマイナスに捉えていることが読み取れる。このような用例は「低評価の判断が可能（以下、「低評価判断」と記す）」なものとして分類する。

一方で、「ニュートラルな語」を修飾し、文脈からも評価性を読み取れない用例も存在する。

(18) これはプログラムの課題にしてもいいくらい、そこそこ難しいものです。次のようにして、日付とそれに対応する数値を求めてみましょう。  
(『Excelのカラクリ』)

(18)では、「そこそこ」が「難しい」を修飾している。しかし、「難しい」ことはあくまで「これ（ここで話題になっている操作）の属性として述べられているのであって、専門家である話者にとってプラスに働くわけでもマイナスに働くわけでもないだろう。そのため、評価の高低を判断することはできないと考えられる。そこで、(18)のようなタイプの用例は、「ニュートラルな語」を修飾するものの中でも、「話者による良し悪しの判断が捉えられないタイプ（以下、「評価不明」）」に分類する。

以上の6項目において、用例数と出現率をまとめたところ、以下に示す表2の結果を得た。

表2 被修飾語の評価分類

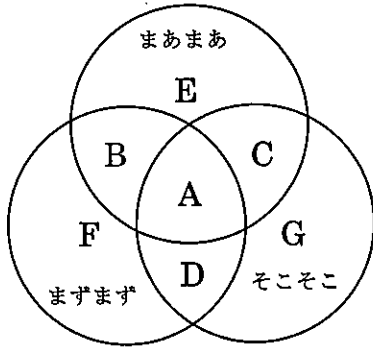
	高評価	中評価	低評価	ニュートラルな語			合計
				高評価判断	低評価判断	評価不明	
まあまあ	60 77.9%	2 2.6%	3 3.9%	7 9.1%	3 3.9%	2 2.6%	77
まずまず	37 88.1%	1 2.4%	0 0.0%	4 9.5%	0 0.0%	0 0.0%	42
そこそこ	97 63.0%	1 0.6%	6 3.9%	21 13.6%	4 2.6%	25 16.2%	154
合計	194 71.1%	4 1.5%	9 3.3%	32 11.7%	7 2.6%	27 9.9%	273

表2より、3語とも高評価語を被修飾語にとる用法が多いものの、出現率には差が認められる。「まずまず」は9割近くが高評価語につくのに対し、「まあまあ」ではその割合が8割未満に下がり、「そこそこ」においては6割強となっている。代わりに、ニュートラルな語を修飾する割合が、「まずまず<まあまあ<そこそこ」の順に高まっている。また、「まずまず」におい

では、低評価となる用例（判断も含む）や「評価不明」の用例が1例も見られないという点も特徴的である。

この結果に至る要因を分析するため、次節以降で具体的な被修飾語を以下で立てる A～G 項目に分けて列挙し、考察を行う。

図1 語群分類図



- A… 3語に共通して表れる被修飾語群
- B… まあまあ、まずまずに共通して表れる被修飾語群
- C… まあまあ、そこそこに共通して表れる被修飾語群
- D… まずまず、そこそこに共通して表れる被修飾語群
- E… まあまあにのみ表れる被修飾語群
- F… まずまずにのみ表れる被修飾語群
- G… そこそこにのみ表れる被修飾語群

### 5.2. 被修飾語の分布による分析

図1で分類した通りに、各語が修飾する形容詞を分けたところ、以下の表3に示す結果を得た。なお、A～Dについては、それぞれの語の用例数を記した。

【A：3語に共通して表れる被修飾語群】

表3 A項目の語群

評価性	修飾語	まあまあ	まずまず	そこそこ
高評価語	良い	15	6	35
	綺麗だ	1	2	9
	面白い	5	1	4
	順調だ	1	7	1
	有名だ	2	1	4
	楽しい	2	1	3
	うまい	1	1	3
	快適だ	1	1	1
中評価語	×			
低評価語	×			
高判断	近い	1	1	1
	高い	1	1	1
低判断	×			
評価不明	×			

前節で述べた通り、「まずまず」は低評価を表す用例がないため、3語に共通する被修飾語群は「高評価語」および「高評価判断」ができる語に限られる結果となった。3語とも、「良い」を修飾する用例がもっとも多い。

- (19) その子も踊りを習ってて、まあ、飲み込みも悪くなかったし、ニホンジンには まあまあ 感じも 良かった し。ほら、ニホンジンって最悪じゃない。みんな群れて行

被修飾語からみる「まあまあ」「まずまず」「そこそこ」の評価性について

動する。

(平島 幹『タン・ナビ・ナビ』)

(20) 彼女はまずまず 良い 娘みたいだったわね。ちょっと変わっていて夢見がちな感じもしたけれど、花の扱いはとって上手だった。

(フィオナ・マウンテン(著)/竹内 さなみ(訳)『死より蒼く』)

(21) でも、そこそこ いい 子でいなきやと、自分にプレッシャーをかけつづけた私が行き着く先は、紆余曲折ありながらも、しょせんは大学進学だったのだろうし、

(吉武 輝子/宮子 あずさ『縁あって母娘』)

また、形容詞修飾用法における総用例数が少ない「まずまず」において、「順調だ」を修飾する用例が7例と多いのも特徴的と言える。

(22) 今年の夏休みはまあまあ 順調に 宿題が済んだものの、自由課題を3つやることになっていて、

(Yahoo!ブログ)

(23) 市場金利の上昇局面で一時的に預金離れ現象に手を焼くことがあっても、S&Lの経営はまずまず 順調と いってよかった。

(宮崎 義一『複合不況』)

(24) フリーのライターになって四年になる。仕事はまずまず 順調で、今日明日の食事に困るようなことは、一度もなかった。

(北森 鴻『花の下にて春死なむ』)

(25) それから、政府の支出は一体どうなっているのだということですが、これはまずまず 順調で ある。

(国会会議録)

(26) 研究所研究員アンドリュー・ケネディ氏空爆抑制なら長期戦も 実際は、英米軍の攻撃はそこそこ 順調だ。

(北海道新聞)

「まあまあ」が使われている(22)も、「そこそこ」が使われている(26)も不自然な印象は受けないが、強いて言うならば、「まずまず」が使われている(23)～(25)は「経営」、「仕事」、「支出」などの状況について用いられる傾向があると判断できる。このことから、成果が数値的に分かる対象について評価を与えるときには「まずまず」が使いやすいと言えるのかもしれない。

【B:「まあまあ」「まずまず」に共通して表れる被修飾語群】

表4 B項目の語群

評価性	修飾語	まあまあ	まずまず
高評価語	元気だ	1	3
	無事だ	1	2
中評価語	×		
低評価語	×		
高判断	×		
低判断	×		
評価不明	×		

Bの語群に分類される語は「元気だ」と「無事だ」の2種類のみであった。

(27) ベサニーはドアを開けながら言った。「元気? ニナ」 「まあまあ 元気」 わたしは答えた。

(シェリ・レイノルズ(著)/香咲 弥須子(訳)『カナンの果て』)

- (28) 確かにミスイはほとんど大人の猫のように大きくなり、毛並みもつやつやして、まずまず元氣そうだった。(アニー・デュペレ(著)／藪崎 利美(訳)『運命の猫』)
- (29) 稽古が始まった頃は 心配な日が何日か続きましたがみんな良く頑張り、公演もまあまあ無事終了いたしました。(Yahoo!ブログ)
- (30) 胃の調子も、なんとなくよくなり、六月と七月は、まずまず無事にすぎた。(水野 肇『夫と妻のための老年学』)

【C:「まあまあ」「そこそこ」に共通して表れる被修飾語群】

表5 C項目の語群

評価性	修飾語	まあまあ	そこそこ
高評価語	おいしい	5	9
	かわいい	1	1
	親しい	1	1
	あたたかい	1	1
	安全だ	1	1
	満足だ	1	1
	好調だ	1	1
	好きだ	1	1
中評価語	×		
低評価語	×		
高判断	大きい	1	5
低判断	十人並だ	1	1
評価不明	×		

ここで挙げた多くの語は、「まあまあ」「そこそこ」ともに用例が1例ずつであり、傾向性が見えにくい、「おいしい」に関してのみ、「まずまず」に使われないにもかかわらず、「まあまあ」、「そこそこ」では比較的多くの用例が得られた。

- (31) ガストのチョコバナナパフェやったかな♪まあまあ美味しかったよ☆やっぱパフェ好きwてか、スイーツが好き♪確実に太るな(笑) (Yahoo!ブログ)
- (32) ジャガイモをらせん状に切り、串に刺して揚げて、スパイスをかけたものですが、まあまあおいしかったです。ちょっと食べにくかったけど。(Yahoo!ブログ)
- (33) 銀座という場所にもかかわらず格安で使えるうえに料理もそこそこおいしく、理恵子たちはよく利用しているようだ。(林 真理子『D o m a n i』)
- (34) 東北の温泉で源泉100%で、料理もそこそこおいしく、多少古くても掃除が行き届いているこじんまりとした宿をおしえてください。(Yahoo!知恵袋)

A群での考察で、「まずまず」は評価が数値的に判断できるものにつきやすいという可能性があることを指摘した。それを踏まえると、「おいしい」のような感覚による判断には「まずまず」は使いにくいかもしれない。ただし、「おいしい」以外にも、話者の感覚に頼った評価語は多数存在するため、この関連性を「各語の特徴」とは断言できない。「感覚による判断」や「話者との共有が可能な評価」を定義づけた上で、さらなる詳細な検討が必要である。

【D:「まずまず」「そこそこ」に共通して表れる被修飾語群】



表6 D項目の語群

評価性	修飾語	まずまず	そこそこ
高評価語	妥当だ	2	2
	便利だ	1	1
中評価語	×		
低評価語	×		
高判断	×		
低判断	×		
評価不明	×		

D群に分類される被修飾語は「妥当だ」、「便利だ」の2語のみであるが、この結果だけでは、「まあまあ」が取りにくい修飾語の傾向を探るのは難しい。「まずまず」と「そこそこ」に共通し、かつ「まあまあ」とは異なる特徴は現段階では考えにくい。

(35) ○・三ぐらいということを現時点で試算としてとらせていただくというのは、まあまあ 妥当な線なのかな。(国会会議録)

(36) まあこればかりは人によるので、平均して考えれば5歳ぐらいが話も合うしそこそこ 妥当だと思われます。(Yahoo!知恵袋)

【E:「まあまあ」にのみ表れる被修飾語群】

以下に、「まあまあ」にのみ表れる被修飾語群を挙げる。なお、用例数が複数見られる場合は( )内に用例数を記す。

《高評価語》悪くない(2)、清潔だ(2)、確からしい、かっこいい、優しい、スムーズだ、上出来だ、通じそうだ、静かだ、無難だ、豊かだ、紳士的だ、もつともだ、大丈夫だ、立派だ、得意だ (異なり語数 16 語)

《中評価語》普通だ、ました (異なり語数 2 語)

《低評価語》つらい、やらしい、粗末だ (異なり語数 3 語)

《高評価判断語》小さい、滑りやすい (異なり語数 2 語)

《低評価判断語》小さい、簡単だ (異なり語数 2 語)

《評価不明》簡単だ、緩やかだ (異なり語数 2 語)

以上より、「まあまあ」は、評価性を持つ語に対しても、評価性がなく文脈からの判断により評価性を読み取るタイプの語に対しても、比較的幅広く様々な語をとることが分かる。その中でも、「悪くない」という否定を伴う句を修飾する用例は注目に値する。

(37) 僕はまあまあ 悪くないそれなりの成績を取ってましたし、とくにより好みしなれば、どこかの適当な大学には入れるだろうと思っていましたから、受験勉強というほどの勉強はしませんでした。(村上 春樹『レキシントンの幽霊』)

(38) これもメーカーはいろいろあるが、値段によって、いいやつ、まあまあ 悪くないやつ、安物と区別できる。(西 成彦『パパはごきげんなめ』)

良いとは言えないが、悪いわけでもない、といったどちらつかずの「悪くない」といった評価に幅を持たせる曖昧な表現形式との結びつきは、今回の調査の限り「まずまず」や「そこそこ」には見られなかった。「まずまず悪くない」や「そこそこ悪くない」が非文になるわけではないが、このような評価に幅を持たせる被修飾語との親和性は「まあまあ」が3語のうち最も強いと言えるだろう。

また、「まあまあ」では「まずまず」に見られない低評価語を修飾する用例、文脈から低評価語を修飾していると判断できる用例、評価不明タイプの用例も数は少ないながらも見られる。

- (39) 昔はソビエトのモスクワの市民というのは、ダーチャという、まあまあ粗末なものでしたけれども、それぞれちょっと出掛けていく別荘というのをみんな持っていましたね。《低評価語修飾》 (国会会議録)
- (40) 一番クラスで小さかったこの子は、自分でも、まあまあ小さい方、といった。でももうすぐ大きくなるんだ、と決意を見せた。《低評価判断》 ((17)再掲)
- (41) ですから、やはり中小企業を含めましてまあまあ緩やかに時短というものの制度を押し進めていただきたい。《評価不明》 (国会会議録)

「まずまず」においては、(39)～(41)に見られる「高評価・中評価以外を示すタイプの用例」は見られないため、この点で、「まあまあ」は「まずまず」より使用範囲が広いと言える。しかし、「そこそこ」に比べると、「まあまあ」による(39)～(41)のような低評価や評価不明の用例は、総用例数も取り得る語種も少ない。

#### 【F:「まずまず」にのみ表れる被修飾語群】

以下に、「まずまず」にのみ表れる被修飾語群を挙げる。

- 《高評価語》平穏だ(2)、成功だ(2)、潤沢だ、臨機だ、軽快だ、大らかだ、標準以上だ (異なり語数7語)
- 《中評価語》平均的だ
- 《低評価語》×
- 《高評価判断語》人並みだ、中位だ (異なり語数2語)
- 《低評価判断語》×
- 《評価不明》×

他の2語に比べて用例数自体が少なく、F群に分類される修飾語数も少ないが、「高評価判断語」に分類した用例は特徴的であった。本来「中評価」と捉えるのが自然であると思われる「人並みだ」や「中位だ」を修飾した用例が、高評価を表していたのである。

- (42) ホワイトボードに字がうまく書けません。紙の上ならまずまず人並みの字が書けるのですが、ホワイトボードではひどい字になります。 (Yahoo!知恵袋)
- (43) レッヂェ [試合前] 勝ち切れない試合多いが、まずまず中位。昇格組の中では健闘している。 (Yahoo!ブログ)

(42)では、ホワイトボードに字が「うまく書けない」のに対し、紙の上では「まずまず人並み」の字が書けるとしている。「人並み」という、本来は高評価として用いられにくい（通常、中評価程度に扱われることが予想される）語が、高評価として成り立っている。

(43)では、「まずまず中位」という評価の後に、「昇格組の中では健闘している」という見方が示され、話者にとっては「中位であること自体が高評価」であるということが読み取れる。客観的に見れば「標準」にあたる成果でも、話者にとっては「高評価」であることを「まずまず」によって示すことが可能となっている。

それでは、「まずまず中位」を「まあまあ中位」と置き換えることはできないのだろうか。筆者の内省では「まあまあ中位」という表現もそれほど不自然ではない。しかし、「まあまあ」を使うと、積極的な評価性が薄れ「だいたい中ほどの順位である」ことを示すだけになってしまうため、後の文章にある「昇格組の中では健闘している」という文章とのつながりが「まずまず」に比べると悪くなるように思われる。「まあまあ」は、様々な評価性の被修飾語と結びつくことから、その語自体にプラスマイナスの意味合いは濃く現れない。そのため、中間的な評価語と結びつく場合は、そのまま「中間的な評価」を示す場合にしか用いられないのである。

#### 【G:「そこそこ」にのみ表れる被修飾語群】

以下に、「そこそこ」にのみ表れる被修飾語群を挙げる。

《高評価語》上手だ(2)、かわいらしい、すごい、偉い、詳しい、高画質だ、丈夫だ、幸福だ、まともだ、優秀だ、理想的だ、実現可能だ、秀才だ、有能だ、正気だ、好みだ、盛況だ（異なり語数 17 語）

《中評価語》中堅だ

《低評価語》グロい、おかしい、痛い、悪い、面倒だ、危険だ（異なり語数 6 例）

《高評価判断語》強い(3)、はやい(2)、広い(2)、静かだ、苦い、甘い、世間並みだ、若めだ、重要だ（異なり語数 9 語）

《低評価判断語》難しい、複雑だ、古い（異なり語数 3 語）

《評価不明》忙しい(5)、多い(5)、大きい(2)、強い、詳しい、高い、小さい、広い、デカイ、重い、遠い、強めだ、安い、難しい、顔見知りだ、適当だ（異なり語数 16 語）

以上より、「そこそこ」はほとんどの項目で「まあまあ」や「まずまず」に比べて多様な語を修飾していることが分かる。特に目立つのは、低評価語と評価不明タイプの語種の豊富さである。まずは、低評価語を修飾する用例をいくつか挙げる。

(44) 当初の目論見どおり、陶芸教室は男性がすごく少ないため、そこそこルックスが~~悪~~  
くとも女性からチャホヤされる。（ドラゴン今中『愛の方程式』）

(45) やっぱり古くなってくるとそこそこおかしくなってきますが、こまめにバイク屋へ持  
って行って点検してもらおうといいですね。（Yahoo!知恵袋）

(46) シンプルに生身の人間が下に落ちるくらいの演出でいいと思うんだけどな。でもそ  
れもそこそこ危険なかしらね。（Yahoo!ブログ）

(44)～(46)の用例に対しては、個人差はあれど「まあまあ」と置き換え可能だという判断も可能だろう。しかし、「まずまず」に置き換えると違和感が出てくる。「まずまず」は、明らかに標準を下回る評価には結びつかないと考えられる。なお、「まあまあ」に置き換えても不自然さが薄いのは、「まあまあ」が後に修飾する語を「評価を曖昧にする機能」を持つからだと考えられる。(44)であればルックスの悪さを、(45)であればバイクの不具合さを、(46)であれば演出の危険さを、それぞれ「あまり大げさにならない程度に伝えたい」という意図があれば「まあまあ」を使うことも可能である。「まあまあ」が低評価語を修飾する用例も取ることがそれを裏付けていると言える(E群参照)。ただし、話者に低評価を「あいまいに、それとなく伝えたい」という意図がないのであれば、「まあまあ」ではなく、「そこそこ」が使われるため、用例数としては「そこそこ」の方が多く見られる結果となったのだと考えられる。

次に、「評価不明」タイプの用例を詳細分析していく。このタイプは「まずまず」の0例、「まあまあ」の2例に比べて、「そこそこ」は25例と、まとまった数が見られる。

(47) ・流石メール：メール数が非常に多い・eライフナビ. net：クリックがそこそこ  
多い (Yahoo!ブログ)

(48) たしか養命酒自体のアルコール度数はそこそこに強めだったと思います。10cc  
くらいをお湯で割って飲んだりしましたけれど… (Yahoo!知恵袋)

(49) 国道から少し奥まったところにある店で、建物はそこそこ大きいのに店にはカウン  
ターと、ボックスが二つしかない。 (柴田 よしき『R-0 amour』)

ここで特徴的なのは、「そこそこ」で表している物事の在り方について、数値的に捉えられる用例が多いということである。(47)、(48)はその典型である。(47)であれば具体的な「クリック数」を数え上げることができ、(48)であればアルコール度数を具体的に挙げるができる。(49)も、建物の大きさを数値で見ることが可能であることから、これに準ずる。他にも、「高い、広い、重い、安い」など、数値で捉えられる事柄を表す語が多いことが語種一覧から分かる。

「まあまあ」や「まずまず」においてもこのような語と結びつかないわけではない。ただし、「まあまあ」を使う場合は、その形容詞の意味を大げさには伝えたくないという話者の意図が必要になってくるし、「まずまず」は、それがプラス(高評価)の意味であるという情報を付加させられなければ用いられにくいようである。再度上記の用例を見ると、(47)においては、クリック数が多いこと自体に評価の判断を下したいわけでもなければ、クリック数の多さを曖昧にして伝えたいというわけでもない。単純に、クリック数が「ある一定程度に」多いことを示している。(48)が、Yahoo!知恵袋からの用例であることから考えても、「養命酒」のアルコール度数を相手に伝えることが目的であり、その情報をあえて曖昧にする必要はないし、その度数に対して良いとか悪いとかいう話者個人の判断を差し挟む必要もないと考えられる。(49)についても、建物の大きさについて曖昧に伝える必要もなければ(むしろ「ある程度の大きさがある」ことを明確に伝えたいのだろう)、建物の大きさを高く評価しようという話者の判断も認めにくい。(47)～(49)に見られるような「評価不明」タイプの用例は、話題の事物の属性を他意なく叙述する場合に出現すると言える。

以上のように、「そこそこ」には評価性や曖昧性を伴わない(あるいは評価性・曖昧性が薄

い、「程度量を限定すること」に焦点を当てた用例が多く見られる。評価性を伴う語につく用例も多く見られるため、「そこそこ」自体が「評価性の薄い語」とは現段階では言えないが、少なくとも「まあまあ」や「まずまず」では表現できない、評価性や曖昧性を伴わない文脈での使用が「そこそこ」では可能であることが言える。

### 5.3. 形容詞修飾用法に見られる各語の特徴

本節では、3語が形容詞修飾用法をとるときの用例について、各語がどのような修飾語を取るか、取り得る形容詞に語ごとの偏りはないか、という観点を中心に考察を行ってきた。その結果明らかとなった各語の特徴を以下に示す。

#### 《まあまあ》

全体的に「高評価語」を修飾する割合が多いが、その他の評価語を取ることもでき、「低評価判断」や「評価不明」などの用例も見られる。「まずまず」「そこそこ」では修飾できて、「まあまあ」では修飾できないといった語は少なく、3語の中で「まあまあ」だけが使いにくい、といった文章は今回の調査範囲内では確認できない。

逆に、他の2語には用いられず、「まあまあ」のみに見られた用例として、「悪くない」という否定を伴う表現との共起が挙げられる。「良いとは言えないが、悪いわけでもない」といった、曖昧なぼんやりとした評価を示す場合は、「まあまあ」が最も使われやすいと考えられる。

#### 《まずまず》

形容詞修飾用法における用例の9割近くが「高評価語」を修飾するもので、その他の用例も「平均的だ」を修飾する1例を除いて、全て「高評価判断」が可能な用例であった。「まずまず」は、3語の中で用法が最も限定的である。この結果から、「まずまず」は、その語自体に、話者の「標準よりやや上の高評価」判断が内在していると考えられる。そのため、低評価を表す用例や、評価の判断をせずに「程度限定」のみを表す用例は出てこず、逆に「人並みだ」や「中位だ」という「中評価」だと想定される語を修飾した上で「高評価判断」を示す用例が認められる。「まあまあ」や「そこそこ」も「中評価語」を取ることも自体は可能である。しかし、「中評価語」に対して、「話者にとっては高評価だ」という意味を付加できるのは「まずまず」にのみ可能な表現である。

#### 《そこそこ》

全体的に幅広く語を取り得るが、「低評価語」「評価不明」に分類される被修飾語の用例が多いのが、際立った特徴である。「まあまあ」にも「低評価語」を取る用例はいくつか見られたが、「まあまあ」は「低評価であることを曖昧に伝えたい」といった意図がなければ使用されにくい。一方で、「そこそこ」は、「まあまあ」の「曖昧性」や「まずまず」の「高評価明示性」のような程度限定以外の「評価性」を認めにくく、単純に被修飾語の程度を限定するのみの場合に使われやすい。そのため、被修飾語が「ニュートラルな語」である場合、「評価不明」に分類される用例が増えてくる。「そこそこ」は明確な評価性を伴わず「程度量を限定すること」に焦点を当てた用例が多いと言える。

「そこそこ」においても高評価性を表す用例が多く見られるため、「そこそこ」の語に「評価

性」が全くないのだとは言えない。しかし、明確な評価性を伴わない用例が「まあまあ」「まずまず」に比べると明らかに多いことから、「そこそこ」の用法は他の2語に比べて広いと考えられる。

以上より、形容詞を修飾する用例の被修飾語による分類・分析結果を踏まえると、「まあまあ」には被修飾語を「曖昧にする評価性」が、「まずまず」には、話者の標準よりやや上を示す「高評価明示性」がそれぞれ認められると言える。現段階では「そこそこ」においては、「まあまあ」「まずまず」のような「評価性」を明確には認めにくく、程度限定以外の観点を介入せずに（話者個人の判断や感情を挟まずに）表現できるという点が特徴だと考えられる。しかし、中には程度を限定する働きに留まらず、話者の見方を含む用例も見られるため、これについては今後もより詳細な分析をしていく必要がある。

本稿では「形容詞修飾用法」に焦点を置いて述べてきたが、その他の修飾用法や述語用法においても調査・考察を進め、3語の「評価性」の捉え方を明確なものとしていきたい。

#### 引用・参考文献

- 川端元子(2012)「程度副詞を分類する視点の考察」『愛知工業大学研究報告』(47), pp115-124  
 清田朗裕(2014)「ソコソコの語史」『筑紫日本語研究』2013 筑紫日本語研究会, pp25-35  
 工藤浩(1983)「程度副詞をめぐって」渡辺実編『副用語の研究』, pp176-198  
 鈴木夕佳(2011)「配慮の機能をもつ副詞についての考察—「そこそこ」を中心に—」『日本語コミュニケーション論集』(1), 日本語コミュニケーション研究会, pp82-89  
 田和真紀子(2011)「程度副詞の評価性をめぐって」『宇都宮大学教育学部紀要』(61), pp25-36  
 仁田義雄(2002)『新日本語文法選書3 副詞的表現の諸相』くろしお出版  
 苗田敏美(2003)「「まあまあ」の表す程度について」『日本語教育論集』(12), pp80-87  
 飛田良文・浅田秀子(1994)『現代副詞用法辞典』、東京堂出版  
 渡辺実(1990)「程度副詞の体系」『上智大学国文学論集』(23), pp1-16

#### 引用コーパス

- 現代日本語書き言葉均衡コーパス 【検索ツール『少納言』】  
 (<http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/search>)